

人と自然分野の研究成果概要

桑原季雄

Outline for Progress Reports of Human and Nature Section

KUWAHARA Suelo

鹿児島大学法文学部

Faculty of Law, Economics and Humanities, Kagoshima University

人と自然分野の研究成果は、研究テーマから見ると多岐にわたるが、大きく下記の4つに分類できる。

1. 奄美の生物多様性の保全（世界自然遺産、希少種、海洋環境）に関する研究

奄美の生物多様性の保全に関するものとしては、世界自然遺産の「遺産」概念についての考察（萩野）や、世界自然遺産の対象となる希少種の保全に向けた取り組みに関する徳之島の事例報告（平井）と奄美大島の事例報告（桑原）、海洋環境の保全に関する取り組み（松田）に関するものがあり、それぞれ現状報告や問題の指摘、今後の調査研究の方向性が示された。

「世界自然遺産にともなう「遺産」概念の考察」（萩野 誠）

「生物多様性保全と地域住民」（平井一臣）

「奄美大島における生物多様性の保全に関する研究」（桑原季雄）

「海運と海洋環境の保全」（松田忠大）

2. 奄美の過去の時代の情報（遺物、遺跡、産物）の分布に関する研究

奄美の近世以前の情報の分布に関する研究としては、遺跡からの遺物の年代測定結果から奄美文化の多様性の起源について解明を試みたもの（高宮）、遺跡からの発掘調査情報の分布（渡辺）と活用（橋本）に関するもの、18世紀の奄美の植生を理解するための最も重要な資料である『琉球産物志』の書誌的調査から同時代の奄美の生物多様性について解明したもの（高津）があり、調査を踏まえた具体的な成果と今後の方向性が示された。

「奄美群島文化の多様性の起源」（高宮広土）

「トカラ小室島における考古学的分布調査」（渡辺芳郎）

「奄美地域における遺跡発掘調査情報の共有化—『全国遺跡報告総覧』の活用—」（橋本達也）

「『琉球産物志』写本の書誌的調査」（高津 孝）

3. 奄美の環境保護（空間配置、民俗知、メディア）に関する研究

奄美の環境保護に関するものとしては、集落の自然環境の利用と祭儀や空間配置との関係を考察したもの（西村）、宇検村の墓地の変化から集落の環境認識の変化を探ろうとする研究（兼城）、自然保護に関する地元メディアの意識調査から、メディアの役割について考察したもの（宮下）があり、今後の調査研究の可能性も合わせて示された。

「奄美の集落カーシマの空間配置と環境保護―」（西村 知）

「環境保全・利用の民俗知―奄美大島南部の墓地利用に注目して―」（兼城糸絵）

「奄美における自然保護に対する住民意識とメディアの役割」（宮下正昭）

4. 人と自然の関わり（文学、映像、作物）に関する研究

人と自然の関わりに関するものとしては、時代ごとの記録映像の分析から奄美のイメージの変化を検証し、60年代までの「貧困」や「災害」から70年代以降の「自然の豊かさ・美しさ」に大きく変化してきたことを解明した研究（中路）、島尾敏雄が、奄美の自然環境が人間に与える影響について執拗に描いた作家であることを指摘した研究（鶴戸）、中南米原産の唐辛子が奄美でどのように捉えられ、利用されてきたかについて解明した研究（山本）がある。いずれも、自然（環境）と人の関係を映像、文学作品、作物を通して解明を試みている。

「記録映像から見る人と自然の関わり」（中路武士）

「文学に見る人と自然の関わり―環境の視点から見た島尾敏雄文学―」（鶴戸 聡）

「薩南諸島における人と唐辛子の関わり」（山本宗立）

以上、人と自然分野は人文社会系の研究者から構成されているため、「生物多様性」の問題に対するアプローチは、「保全」、「環境」、「自然」、「情報」など様々であったが、少なくとも生物多様性と関連する問題の裾野の広さと今後の研究の方向性を示せた点が最大の成果だと言える。